


○大間々地区検討委員会 第1回委員会の協議内容と今後の協議内容について

意見の概要	<p>①大南小卒業時に2つの中学校へ分かれる現状を見直す必要あり。(中1ギャップの解消)</p> <p>②大南小の小規模校化に対する閉校は寂しいが、先を見通した協議は必要ではないか。</p> <p>③大南小をどのようにすべきかを中心に協議し、その後に周囲の学校をどうすべきか協議するのがよい。</p> <p>④運動会を見ても、小中学校ともに、ある程度の規模を確保していく必要がある。</p> <p>⑤クラス替えや人間関係への配慮を踏まえると、学年3～4クラスは必要。</p> <p>⑥小学校は地域密着型で、中学校はある程度の規模を確保した上で切磋琢磨していけるようにする必要がある。教育委員会提示の案1(小学校2校、中学校1校)とすることが一番良い。</p> <p>⑦地域を越えた学区再編の協議が必要だ。難しいことだが大人の知恵を出し合って、将来につなげるべきだ。</p> <p>⑧平成の大合併以降、学校の小規模化に伴う対応が全国的に課題になっている。市としての一体感の醸成は大切であるが時間がかかる。地理的にも、笠北小と大東小の距離よりも、大東小と大南小の距離の方が近い。</p>
	
今後の協議	<p>〈方向性を得る協議内容〉</p> <p>①大南小の今後をどうするか。</p> <p>②小学校2校、中学校2校とするか、義務教育学校2校とするか、また、その他の方法とするか。</p> <p>③地域の枠を越えた学区の見直し等による市の一体感の醸成を推進する学校の在り方をどのようにしていくか</p> <p>《要望としてまとめる協議内容》</p> <p>①跡地利用、給食提供方式について。</p>